

平成 19 (2007) 年度「NGO 長期スタディ・プログラム」最終報告書

氏名：宗野 永枝

日本側所属団体： 特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

海外研修先名：Foundation For Slum Child Care (タイ語：มูลนิธิเด็กอ่อนในสลัม)

研修期間： 2007 年 10 月 18 日 ～ 2008 年 3 月 25 日

研修テーマ：アジア圏の教育、就業支援、障害者の自立支援、貧困地域住民のエンパワーメントについて、現場や本部でボランティアスタッフがどのように活動に関わっているかを体験する。また、ボランティアスタッフの能力向上のための体制や、管理方法を学ぶ。

【研修期間全般を通じて行った業務および活動】

- 1) FSCC デイケアセンター業務補助
- 2) バンコク都内のスラム地域にあるベビーズセカンドホーム(デイケアセンター支部。以下 B2H)訪問
- 3) 地域巡回同行(ヘルスケアセンター、新生児宅および妊婦宅訪問)
- 4) 地域での子どものケア方法指導や保健衛生に関する啓蒙活動参加
- 5) 資金調達(本部でのバザー、外部バザー出展、募金箱回収、寄附金・寄贈品回収)補助
- 6) 本部ミーティング、プロジェクト別ミーティング、および理事会参加
- 7) 記念式典(デイケアセンター移転記念式、本部新事務所移転起工式)参加
- 8) ケアワーカー養成研修、スタッフ研修参加・記録
- 9) ボランティアキャンプ、妊婦夫婦キャンプ参加・運営補助
- 10) イベント(スポーツ大会)参加・記録
- 11) ブリッジ エーシア ジャパン(以下 BAJ)ベトナム・ミャンマースタッフの FSCC 視察受入れ
- 12) 現地のフリーペーパー取材、日本からの福祉施設視察団の受入れ補助、その他取材補助
- 13) 他団体の活動参加および現場視察
- 14) スタッフインタビュー

【具体的な研修内容】

地域巡回・家庭訪問に同行し、本部スタッフが行っている B2H の管理指導、ケアワーカーのコンサルティング、地域での啓蒙活動を見学し、本部スタッフとケアワーカーとの関係、ボランティアの活動を視察した。また、記録の補助として写真撮影を担当した。また、デイケアセンターでの特別な行事やキャンプ・スポーツ大会等のイベントでは、運営補助を行いスポンサーへ向けた報告のための写真撮影を担当した。

ミーティングやスタッフインタビュー、本部事務所での各種業務補助を通して、プロジェクトや組織体制、スタッフ間のコミュニケーション方法などを学んだ。

FSCC が各方面から取材を受けた際は、マネージャーや担当者に付いて、団体の持つネットワークや広報について学んだ。

【本研修の成果】

1) バンコクのスラムの歴史、現状についての理解

FSCCでの活動やその他タイ国内での団体を見ることで、バンコク都内最大といわれるスラム地域や、その他点在している低所得者のコミュニティの現状を把握した。一部の地域には多くのNGOが関わっているのに対し、点在する中小のコミュニティには支援の手が届いていないことを実感した。

2) FSCCのボランティア育成方法の理解

地域巡回や各種研修の補助を通して、FSCCの、ボランティア(地域住民)が自ら子どもを守り育てられるような知識やノウハウを提供し、ターゲットグループ内でのネットワークを築いていく活動のやり方を学んだ。また、ボランティアが参加しやすい土壌をつくるデイケアセンターの運営を学んだ。

3) FSCCのスタッフおよび関係者とお互いの活動やビジョンについての相互理解

マネージャーやスタッフひとりずつにインタビューをすることによって、FSCC全体のビジョンや現場で活動するスタッフのビジョンを理解した。また、BAJのスタッフ視察受入れを通し、お互いの活動について意見交換することができた。

4) スタッフおよび関係者とのタイ語でのコミュニケーション

FSCC内ではタイ語でのコミュニケーションを心がけ、研修外でタイ語のレッスンを受講していたため、研修後半では日常会話の大部分をタイ語で行うことが出来、研修最後には、理事会でタイ語による研修報告を行った。しかし、活動内容の説明や研修内容の理解は通訳を要した。

【研修テーマや本研修で求めていたことが達成できましたか。達成できなかった場合は、その理由もお書きください。】

現場での活動には、主にボランティアと同じ立場で活動に参加し、ボランティアを積極的に活動に組み入れる活動方針を体験することができた。また、この団体では年間計画や活動のレビューなど組織体制がしっかりしており、年間をとおして研修やミーティングが組まれていたため、5ヶ月という短期間でも、スタッフやボランティアの能力向上のための体制について全体像を把握することが出来た。一方、200人あまりいるボランティアの詳細データ(年齢、性別の分布等)収集や、それについてのスタッフとの議論までには至らなかった。というのも時間的制約から全部の地域を回することはできず、私のタイ語のコミュニケーション能力も十分でなかったからである。また、地図を使用して、バンコク都内に点在するB2Hの分布図を作成し、今後のFSCCの活動に役立ててもらおうと試みたのだが、詳細の地図が入手できず、断念した。

【本研修成果を自団体の能力強化にどのように活かそうと考えますか】

FSCCでの経験をもとに、日本や活動支援国の特性や文化を前提に、BAJで求めるボランティア像を確立し、それに沿ったボランティア受入れの体制をつくる。また、多くのボランティアの参加や支援者増に努める。また、得た知識や資料を組織内で共有し、効果的と思われる部分を取り入れ、ボランティア・インターンの人材育成の育成ガイドラインを作成し、事務所内で共有する。

また、今回つながりができたBAJのベトナム事務所、ミャンマー事務所とFSCCとの直接交流によって、各現場の活動や他国との経験交流を定期的に行う。

【今後の課題】※本プログラムや事務局側に対する要望等でも構いません

研修先の選定について JANIC に頼ってしまったので、今後は自分達で研修先になるような NGO との関係を幅広く作っていきたい。今回関係を築いた FSCC とは、今後も相互のスタッフ交流など続けたい。

また、研修先決定から研修開始まで時間が短く、事前準備や事前調査が十分でなかった。研修前に決定したスタディ員同士での情報交換の場があるとよいと感じた。